

## 参考資料

- ・ 絵画、写真から見るかつての天橋立の姿
- ・ 天橋立文化関連記事略年表
- ・ 天橋立の維持管理に関する年表
- ・ 天橋立の利活用状況
- ・ 命名松一覧

## 参考 絵画、写真から見るかつての天橋立の姿

天橋立は、その特異な自然景観から中・近世で、すでに単なる自然物ではなく、文化遺産として捉えられており、雪舟の絵画等に代表される文化・芸術の題材として扱われていた。天橋立における松並木植生の歴史的事実を知る手がかりとして、天橋立図が網羅的に取り扱われてきている下記2図書掲載の絵画作品45点の分析を行なった。

- ・ A 『日本三景展』図録（日本三景展実行委員会編集・発行 2005）
- ・ B 『智恩寺の文化財』（若杉準治監修 智恩寺発行 1999）

表項目中の制作年代及び備考欄に記載した内容の一部については、上記図書の解説文を参考にした。また同様に、平成17年9月23日開催の日本三景展シンポジウム内での発言および、当館で開催した同年10月1日（講師：花園大学 福島恒徳氏）、10月29日（講師：京都文化博物館 野口剛氏）の講演内容を参考にした。

表は概ね制作年代順になっている。また、網掛けの有無は表現参照の可否を提案している。表現の参照が可能と考える絵画作品については末尾に付図を付した。

### \* 参照に際しての留意点

- ・ 写真や測量図とは異なり、参照可とした真景図でも、絵画表現そのままを当時の実態とすることは困難であり、読み取れる情報の選択が必要である。
- ・ それぞれの橋立図には描かれた主題や主眼がある。そのため全体としては真景に近くても、細部表現まですべてが正確ではない。
- ・ 個別松の枝振りや個性については、典型パターンを配列する場合もあり留意を要する。

### 【凡例】

#### 1) 類型について

- w：西方向から見た景観。概ね大内峠方面よりの眺望。
- e：東方向から見た景観。概ね栗田半島方面よりの眺望。
- n：北方向から見た景観。概ね成相寺・傘松方面よりの眺望。
- s：南方面から見た景観。概ね普甲峠方面よりの眺望。
- ne：北東方面から見た景観。
- d：縦型の画面。なお北方向からと南方向からの景観が有る。

#### 2) 松並木表現の分類内容について

- ：概ね参照可。（実景に近い風景が描かれているもの。作者が現地を実見しているもの。）
- ：考証の上、参照可（総体として実景を踏まえて描かれるが、考証が必要なもの。作者が現地を実見しているか、あるいはその可能性が高いもの。）
- ：参照不可（一定実景が踏まえられているが、手本となる構図を元にして描かれたもの。作者が現地を実見したかは判断できないもの。）

- : 参照不可（一定実景が踏まえられているが、デフォルメされて実景とは遠いもの。作者が現地を実見したかは判断できないもの。）
  - ×：参照不可（実景が踏まえられていないもの。作者が現地を実見せず描かれたとみられるもの。）
- 3）制作年代は世紀（西暦）で記述した。製作年の明らかなものは備考に記載した。

絵画作品における天橋立の松並木表現分類表

付図番号	類型	分類	制作年代(世紀)	三景展図録番号	智恩寺図録番号	作品名	作者	所蔵者	備考
1	w	x	14	21	1	慕帰絵 第九巻	藤原隆昌	西本願寺	観心2年(1351) 文龜元年(1501)頃制作。全体の構図は各地点のスケッチを元に再構成されたと推測され、一地点からの写生図ではない。松並木については松の粗密については参照可能と考えられる。ただし個別松の枝振り・高さなどは、地点毎に縮尺の異同がある。
	e	○	16	参	2	天橋立図	雪舟	京都国立博物館	
2	e		16	24	3	成相寺参詣曼荼羅		成相寺	智恩寺境内に鉄湯船が表現される。松並木の粗密表現有り。現状を一定踏まえているか。ただし智恩寺門前の針葉樹は後補の可能性有り。
	e	○	16	29	4	天橋立・須磨図屏風			
3	e		16	30	5	天橋立・富士三保松原図屏風			ルメ強くx。 建仁寺常庵龍崇(賛)
	w		16	26		九世戸龍燈図扇面		奈良国立博物館	
	e		17	33		厳島・天橋立図屏風			地形についてはデフォルメされているが、天橋立と智恩寺境内の植生が描き分けられている点は注目できる。
	e		17	34		厳島・天橋立図屏風			41と構図類似：半島の形・塔の位置
	e		17	39		天橋立・住吉社図屏風			
	e		17	41	12	天橋立図屏風		智恩寺	
	n		17	71	14	天橋立丹後図画冊	狩野探幽		写生に堪能・意欲的であった探幽(1602~74)の成相寺付近からのスケッチ。各松の枝振りは描かれぬいが、粗密を知る手がかりとできる。
3	e		17		6	厳島・天橋立図屏風		南蛮美術館	
	e		17		7	厳島・和歌浦図屏風		和歌山県立博物館	
	e		17		9	厳島・天橋立図(屏風)		サントリー美術館	
	e		17		10	厳島・天橋立図(屏風)		王舎城美術実物館	
	e		17・18	40		天橋立・和歌浦図屏風		佐野美術館	智恩寺塔六角形
	e		17・18		8	天の橋立・和歌浦図(屏風)		大倉文化財団	
	e		17・18		11	天橋立図(屏風)		東京富士美術館	
	e		17・18		13	名所図(屏風)		石川県立美術館	

付 図 番 号	類 型	分 類	制 作 年 代 ( 世 紀)	三 景 展 覧 番 号	智 恩 寺 図 録 番 号	作 品 名	作 者	所 蔵 者	備 考
	e		18	55		松島・天橋立図扇	鶴沢探索	東京国立博物館	
	e		18	72		天橋立図(眼鏡絵)	円山応挙		
	e		18	93		丹後国天橋立図	亡名子	宮内庁書陵部	享保11年(1726)
	e	x	18	15		与謝大絵図		成相寺	
	n		18	80		五畿七道図帖・山陰奇勝之図 丹後天橋立図	淵上旭江	岡山県立美術館	寛政8年(1796)。59と構図同じ
4	e	○	18・19		18	天橋立図	松翁齋	智恩寺	全体としては単調であるが、智恩寺境内の様子が詳しく描かれている。享保11年の丹後国天橋立図を踏まえているため、18世紀半ば以降の作品と考えられる。植生表現の差異は、相対的な密度を表現していると考えられる。
	e	x	19	46		天橋立図襖	土佐光文	宮内庁京都事務所	安政2年(1855)
	e	x	19	50		二の丸御殿大奥対面所 入側	狩野養信	東博	天保5年(1834)
	e		19	62		天橋立・松原図屏風	狩野永岳		智恩寺塔無し。詳細描写無しx。
	n		19	59		天橋立真景図屏風	淵上旭江	大津市歴史博物館	寛政12年(1800)。海保青陵賛有り
5	n		19	73		天橋立真景図	島田雅喬	智恩寺	跋に三井高就が天保14年(1843)に訪れた天橋立に感動し、雅喬(1808~81)を現地に派遣して描かせたことが記される。遠望すると見えないはずの智恩寺境内の様子が克明に描かれるなど遠近表現に加工はある(『日本三景展』No.73解説)。松並木の表現はやや単調であるが、橋立明神付近に松以外の広葉樹とみられる樹木や下草が表現されている。また小天橋が成長しつつある様子が描かれる。
	n	x	19	113		大日本三景図	玄々堂	舞鶴市郷土資料館	
	n	x	19	117		大日本三景之内	有山定次郎	萩美術館・浦上記念	明治23年(1890)
	w		19	6		天橋立図胴懸		占出山保存会	天保2年(1831)
	w		19	61		天橋立・富士三保松原図屏風	横山華山	千葉市美術館	文政5年(1822)
	w	x	19	95		日本三景 天橋立	歌川豊広	舞鶴市郷土資料館	文政年間(1818~30)
	w	x	19	114		日本三景	岡田春燈斎	舞鶴市郷土資料館	
	s	x	19	96		諸国名所記 丹後天橋立風景	歌川広重	舞鶴市郷土資料館	天保6~10(1835)
	d	x	19	2		日本三景図	上田公長		
	d	x	19	1		日本三景図	狩野養信		

付図番号	類型	分類	制作年代(世紀)	三景図展覧録番号	智恩寺録番号	作品名	作者	所蔵者	備考
	d	x	19	100		諸国名所百景 丹後天のはし立	二代歌川広重	舞鶴市郷土資料館	文久2(1862)
	d	x	19	3		日本三景図	山野峻峰斎		
	d	x	19	98		六十余州名所図絵 丹後 天橋立	歌川広重	東京国立博物館	嘉永6(1853)
	n	x	20	127		天橋立	岩澤重雄	府立総合資料館	昭和35年(1960)
	d	x	20	123		天橋図	小野竹喬		大正9年(1920)
	d	x	20	4		日本三景図	見玉希望		
	ne	x	20	118		宮津橋立名所図会	吉田初三郎	府立総合資料館	大正13年(1924)

次に、参照が可能と判断される絵画、あるいは考証の上で参照が可能と判断される絵画5点(雪舟の天橋立図、須磨図屏風、狩野探幽の天橋立丹後図画冊、松翁斎筆の天橋立図、島田雅喬の天橋立真景図)及び明治時代以降の写真から、かつての天橋立の姿を推察する。



1 国宝 天橋立図(部分) 雪舟筆 16世紀初頭(室町時代)

\*画面の大きさは、縦89.4cm×横168.5cm(ほぼ畳1畳分)と大きく、20枚の紙が貼り継がれている。墨線の不連続、墨濃淡の差異、紙継ぎ間のずれなどから、大きな部分を別々に描き、後に組み合わされた絵であることが従来より指摘されている。

\*上空からの視点を含め、沿岸のどの地点に立ってもこの図の構図と同じ景色が見える場所は無く、いわゆる「写生図」では無いことも明らかにされている。

\*松の細部描写に目をむけると、天橋立の松に比べ、智恩寺境内周囲の松樹高が平均して高く描かれている。同じく籠神社から江尻にかけての山際では数本の松が巨大に描かれる。これらは天橋立中の植生とは異なったスケールで描かれているか、あるいは強調表現である可能性がある。

\*天橋立中の松には過度に誇張された個体は無く、相対的な樹高は雪舟の目に映った情景が反映しているのではないか。

\*密度についても、相対としては当時の雰囲気을伝えている可能性がある。





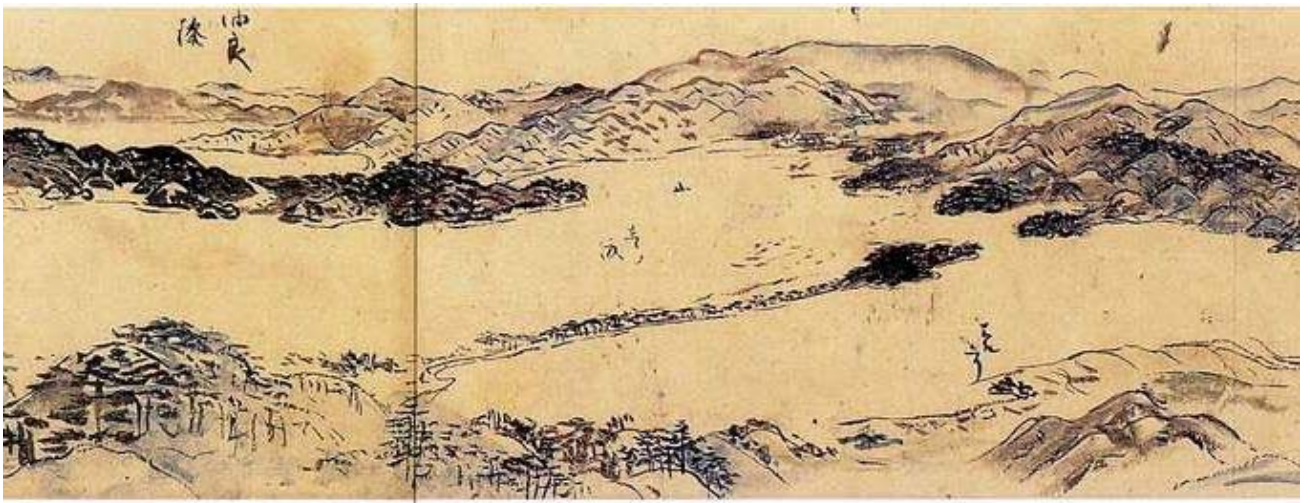
2 天橋立・須磨図屏風 16世紀後半（室町時代）

\* 智恩寺境内の建物描写や配置が、他の名所図屏風に比べ現状に沿っている。特に現在も同位置にある鉄湯船が描かれている点は注目される。

\* ただし地形をみてわかるように、全体的にはかなり図案化されている。

\* 天橋立の松については、右から1・2隻目と3隻目では密度と個体の描かれ方が異なる。1・2隻目では密度は粗く単調で、個体もほぼ同じモチーフで描かれているが、3隻目では密で個体の高さも形態も変化が付けられている。

ここには橋立明神付近ではこれより江尻寄りより松が密であり、樹高に高低差がある実景が、一定反映している可能性がある。



3 天橋立丹後図画冊（部分） 狩野探幽筆 17世紀中頃（江戸時代）

\* 成相時付近からの写生された風景画である。

\* 橋立明神・智恩寺付近に比べ、天橋立中央部分から江尻にかけての松の密度がかなり粗である様子が描かれている。

\* 樹高も前者は高く後者は総じて低い。

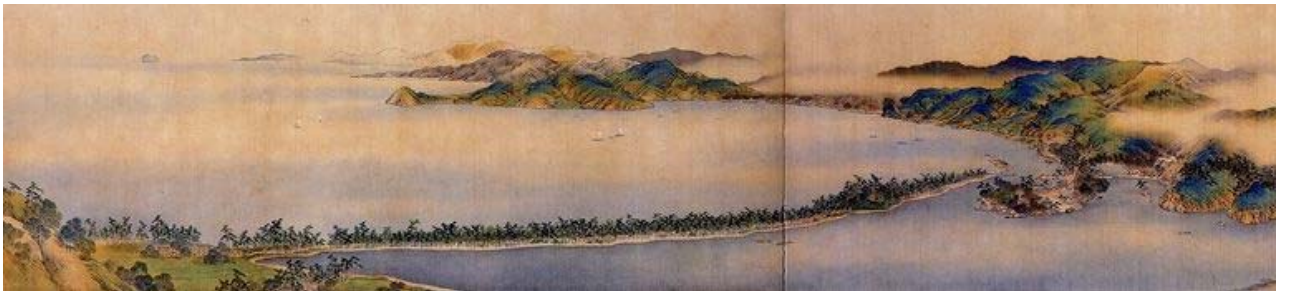
\* 江尻沿岸近くでは松の描かれていない範囲があり、砂州の幅も狭まっている。





4 天橋立図（部分） 松翁斎筆 18世紀後半～19世紀前半（江戸時代）

- \* 智恩寺付近がひととき大きく描かれており、遠近感の操作が行われている。
- \* 天橋立の松についても、橋立明神付近の松がひととき高く描かれており、樹高の相対バランスも実際ではない。ただし、この付近に高い個体が集まっている傾向が把握できる。同じく、それより江尻寄りについては粗であったとみられる。
- \* また橋立明神付近では、低木あるいは下草と見られる表現がある。

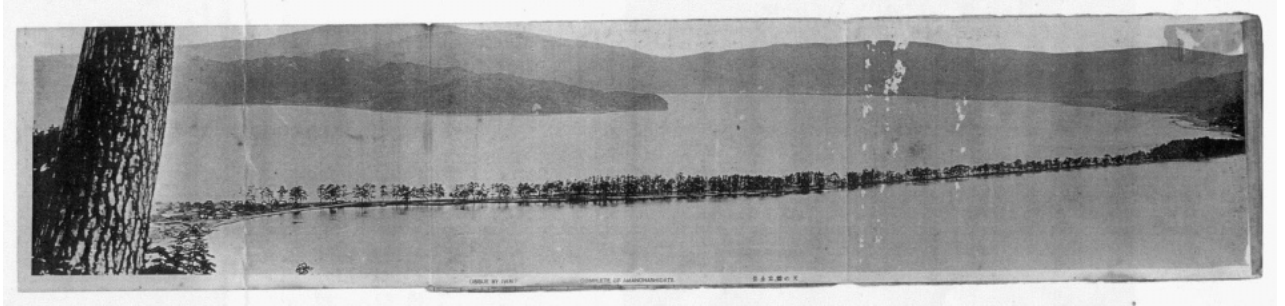


5 天橋立真景図（部分） 島田雅喬筆 19世紀中頃（江戸時代）



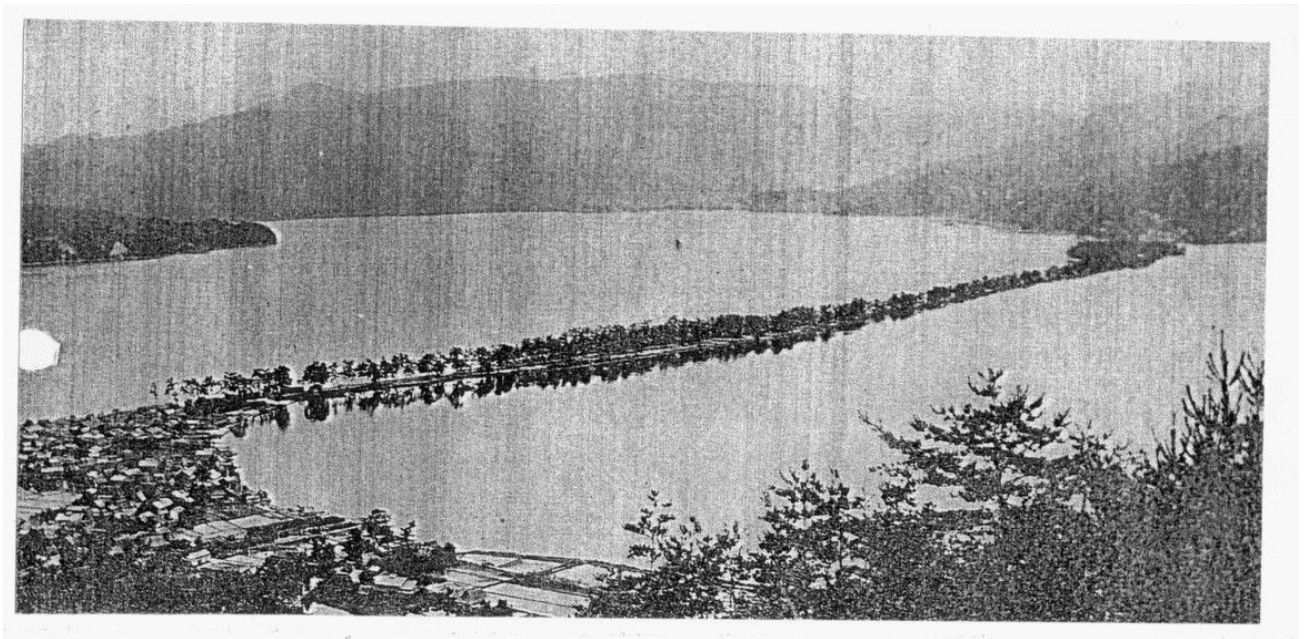
神社周辺の拡大図

- \* 雅喬が現地を訪れている。智恩寺の境内がやや大きく詳しく、強調されている。
- \* 3の探幽筆図より全体的に松が繁茂しており、橋立明神付近とその他の地点での密度の差が一定回復している可能性がある。
- \* 橋立明神付近の地表面は緑色で表現されており、低木あるいは下草の表現されているとみられる。
- \* また、松以外の樹種とみられる表現がある。
- \* 江尻付近では、短いながら松が途切れている部分がある。
- \* 途切れた部分より江尻の陸地寄りの松は、相対的にやや樹高が高い。
- \* 発達し始めた小天橋が描かれている。



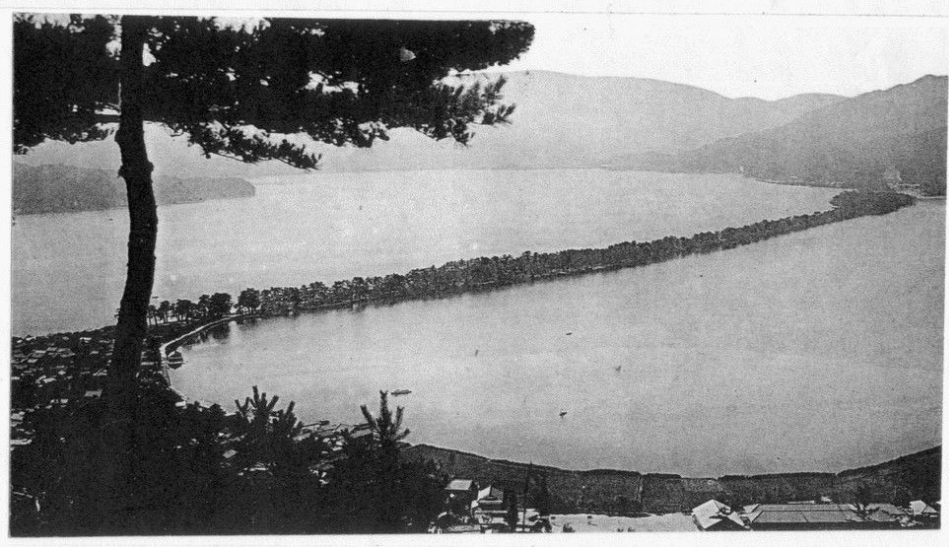
6 絵はがき 天橋立全景 明治 12～19 年発行

- \* 切手の券種が 2 銭と有り、表題の年代頃撮影された写真であることがわかる。
- \* 江尻近くの松の密度がかなり粗い。
- \* 橋立明神付近までの間、江尻寄り半分の範囲で密・高、橋立寄り半分の方がやや粗・低である。橋立明神付近では密であるが、写真から樹種までは読み取れない。



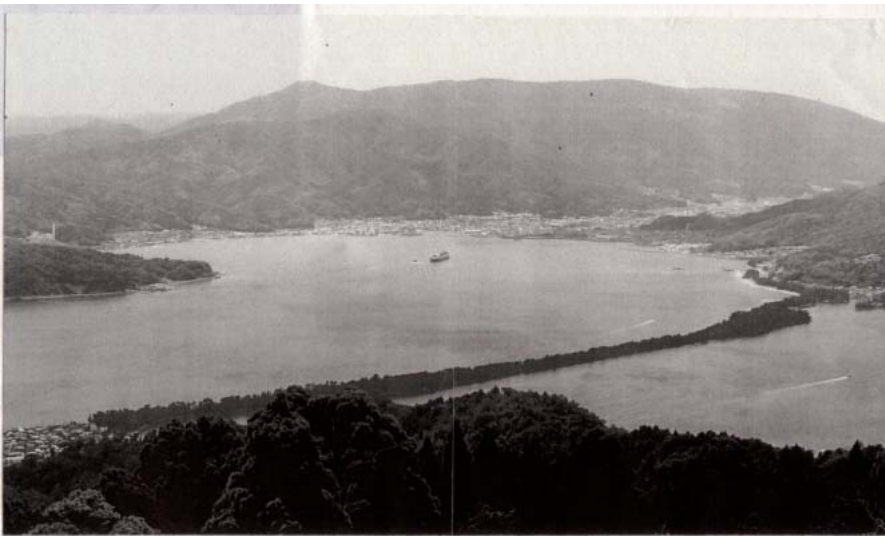
7 古写真 天橋立風景 明治 36 年撮影

- \* 6 の頃より個体の成長のためか、やや密度が高まって見えるが全体として粗く、大きな変化は無い。



8 絵はがき 8 天之橋立全景 昭和 8 年発行

\* 7の頃より密度がかなり高まっており、全体として松並木が連続している。



9 写真 天橋立全景 平成 16 年 7 月撮影

\* 台風 2 3 号以前の状況。昭和 8 年頃より松が繁茂し、松より宮津湾側の海面が透けて見える場所は無く、橋立明神付近が際立って密に見える状況に無い。



	西暦	年号	記事	出典	備考
奈良時代			与謝郡郡家東北隅方速石里此里之海有長大前、長一千二百廿九丈、或所十丈以上廿丈以下、先名天橋立、後名九志浜、… *	丹後国風土記逸文	
	713	和銅七年	丹波国より丹後国が分国される。	続日本紀	国府の設置
	741	天平十三年	三月、国分寺建立の詔	続日本紀	国分寺の建立が始まると考えられる
	756	天平勝宝八年	十二月、聖武天皇一周忌を期して、丹後国ほか二六国に灌頂の旗、道場の旗、ほかを頒ち下す。	続日本紀	
平安時代	831~877	貞観十三年~元慶元年	籠神社宮司家の海部氏系図が編まれる。	海部氏系図	
	966	康保三年	大中臣能宣、内裏歌合において、天橋立の形を作り和歌を読む。	千載和歌集	天橋立、歌枕に詠われる。
	983	永観元年	大中臣能宣、太政大臣藤原頼忠の障子絵に天橋立の和歌を読む。「一条の太政大臣のいへの障子のえ、くにぐのなあるところをかかせ侍りて、人々の歌よみてつけよと侍りしかは、よみてたてま丹後掾曾根好忠、円融天皇の子の日遊びに召しなく参加して追い出され、後日与謝海を詠じた和歌を奉る。「よさのうみのうちのはまのうらさひて、世をうきわたるあまのはしだて とをたかさこのまつなれと、身はうしまとによするしらなみの、たつきありせは、すへらにのおほ宮人となりもしなまし、心にかなふ身なりせは、なにをかねたるいのちかとしる よさのうとすまのしまにもあらねともくもまをすくるほとそかなしき」	能宣集	
	985	寛和元年	丹後掾曾根好忠、円融天皇の子の日遊びに召しなく参加して追い出され、後日与謝海を詠じた和歌を奉る。「よさのうみのうちのはまのうらさひて、世をうきわたるあまのはしだて とをたかさこのまつなれと、身はうしまとによするしらなみの、たつきありせは、すへらにのおほ宮人となりもしなまし、心にかなふ身なりせは、なにをかねたるいのちかとしる よさのうとすまのしまにもあらねともくもまをすくるほとそかなしき」	好忠集	
	1023頃	治安三年頃	小式部内侍、「大江山いくのの道のとほければまだふみもみず天橋立」の歌を詠む。	金葉集	
	1012以前	長和元年以前	赤染衛門、大江匡衡に和歌を贈る「同人丹後に通しころ、はしたてのすなこをえさせたりしに、ゆきかへる道のたよりにうしるめた浜のますなの数やしりにし」	赤染衛門集	
	1017頃	寛仁元年頃	僧寛印、恵心僧都源信に倣い、丹後において迎講を行う。「源信、迎講を始ムル事 迎講者、恵心僧都源信始給事也、三寸小仏を脇足ノ上ニ立テ、脇足ノ足ニ付緒テ引寄々々シテ、滯滯泣給ケリ。寛印供奉ソレヲ見テ、智発シテ、丹後迎講ヲ始行云々。」(『古事記談』「来迎ノ儀ヲ丹後国府天ノ橋立ニ移シテ、三月十五日ニ是ヲ行フ。」(『述懐抄』)	古事記談(他に、迎講談収録書：述懐抄、東大寺雑集録、当麻曼荼羅疏、鑑囊鈔、今昔物語集、続本朝往生伝、元亨釈書、本朝高僧伝)	丹後天橋立の迎講伝承がおこる。
	1038以前	長暦二年以前	大中臣輔親(954~1038)、平安京七条三坊九町の自宅六条院に天橋立を見立てた庭園を造る。「海橋立」と呼ばれたという。	拾芥抄、十訓抄	天橋立、都で造形として模せられる。
	12世紀初		海は、水うみ、よさの海、かはぶちの海、…	枕草子	
	1135以前	保延元年以前	僧行尊が丹後国成相寺他、観音霊場三十三所を巡礼する。	寺門高僧記 巻第四	この頃には成相寺が観音霊場として知られている。
	1161	応保元年	僧覚忠が丹後国成相寺他三十三所を巡礼する。	寺門高僧記 巻第六	
	13世紀以前		丹後国成合観音霊験話	今昔物語集、宇治拾遺物語、梁塵秘抄	
	13世紀以前		よしなしごと わびしきことなれど、露の命絶えぬ限りは食物もよう侍り、めうこくかみしの信濃梨、いかるが山の枝栗、三方郡の若狭椎、天の橋立の和布、…	堤中納言物語	
鎌倉時代	1207	承元元年	後鳥羽上皇が造営した、最勝四天王院の名所襖絵に天橋立が描かれる。	明月記	歌枕・やまと絵、名所の一所として天橋立が挙げられている。
	1270	文永七年	智恩寺文殊堂四天王柱に参籠記事。(智恩寺文書)	智恩寺文殊堂墨書銘・宮津市文化振興室発表資料	この頃には智恩寺が霊場として知られている。
	1299	正安元年	成相寺が幕府の祈禱寺院の一つに書き上げられる	関東祈禱寺注文案(金沢文庫文)	
	1314	正和三年	智恩寺文殊堂四天王柱に参籠記事。「帰命三世覺母七ヶ日参籠、正和三年閏(カ)二月三日 …」	智恩寺文殊堂墨書銘・宮津市文化振興室発表資料	
	1320	元応二年	智恩寺文殊堂四天王柱に参籠記事。「但州」の僧、「丹国」「櫛野戸」の「霊堂」に「参籠」し「勤行」する。	智恩寺文殊堂墨書銘・宮津市文化振興室発表資料	

	西暦	年号	記事	出典	備考
南北朝時代	1334	建武元年	西大寺僧宣基が丹後国分寺を再興する。	丹後国分寺建武再興縁起	
	1346	貞和二年	遊行上人託何、天橋立万福寺の扁額を揮毫する。	木造万福寺扁額裏面刻銘	
	1348	貞和四年	本願寺覚如、丹後国府、大谷寺、成相寺を巡覧し、船で九世戸を経て宮津に着く。「年来ゆかしくも見まほしく思ひわたり侍る丹後の海橋立に赴くに、みちに雲原といふ深山の中にて郭公をききて・仍次の彼寺(成相寺)へ詣でて、同の正面の舞台様なる所の柱に書付侍る法印詠歌 雪のなみいくへともなきすさきより ながめをとおす天の橋たて 州県宗康 をとにのみききわたりつるすゑ有て浪まにみゆるあまのはし立…」	慕帰絵詞	
	1352	文和元年	国阿上人、丹後国へ修行に出たまふ、「それより久志浜にいたり、智恩寺へ参詣し給ふ、本尊は文殊大士の立像、御長一尺五寸、鰐口とともに海底より出で給う・文殊堂より一町余り出て天橋立あり、南より北へ海中に一筋道あり、横は十五間程、両脇は松原なり、浜より十五町計行て、きれめ一丁ほどあり、久志渡といふ、此所より文殊と鰐口出たり…」	国阿上人絵伝	
	1371	観応二年	禅僧春屋妙葩、この年より丹後に隠棲し、天橋立に滞在する。		
	1386	至徳三年	十月、天橋立に遊ぶ。	空華日工夫略集	
	1382	永徳元年	禅僧愚中周及、九世戸に遊び、天橋立を賦う。「師訪旧識於丹州、取路詣九世戸、有頌題天橋曰、天橋不可不来遊、足見神仙巧運籌、巨蟒蛻鱗横曝骨、長鯨露背未抬頭、…」	大通禅師語録	禅僧が智恩寺を訪れ、五山文学の中に天橋立が見られるようになる。
	1393	明德四年	五月、義満夫妻、丹後九世戸文殊堂に詣でる。		義満、頻繁に天橋立に遊ぶ。この頃、天橋立を舞台とする能が成立す
室町時代	1395	応永二年	五月、義満、若狭丹後に遊ぶ。	荒暦	
	1396	応永三年	九条忠基等、天橋立の見物に訪れる。「十月 日、九条禅閣、大将殿、孝尋同道、丹後国海士橋立一見、…」	大乘院日記目録	
	1395	応永二年	將軍足利義満、九世戸に詣でる。「応永二年九月十九日、同(丹後)九世戸の御次に、当国(若狭)高浜矢穴、当浜御成ありて、…」	若狭国税所今富領主代々次第	
	1396	応永三年	九条忠基等、天橋立の見物に訪れる。「十月 日、九条禅閣、大将殿、孝尋同道、丹後国海士橋立一見、…」	大乘院日記目録	
	1405	応永十二年	將軍足利義満、九世戸に参詣する。「十四日、丹後国曲戸御参詣、同十廿(七)日御下向、此次四(篠)村八幡宮御参詣…」	東寺王代記	
	1407	応永十四年	五月、義満、北山院と丹後九世戸に参詣する。	教言卿記	
	1414	応永二十一年	八月、足利義持、丹後九世戸智恩寺に参詣せんとする。	耕雲紀行、満濟准后日記	
	1434	永享六年	足利義教の室町殿新会所に「橋立の間」が創られる。		和歌・やまと絵の伝統の継承。
	1464	寛正五年	五月、細川勝元、九世戸へ参籠する。「十一日…一安位殿御書到来、細川丹後国九世戸ニ参籠、…」	大乘院寺社雑事記	
	1467	文正二年	守護一色義直を大檀那に、智海、不動明王像を造像する。	大谷寺不動明王像像内銘	
	1473	文明五年	智海、丹後国一宮(籠神社)に大聖院を建立する。	智海請文	天橋立図に描かれた府中の風景が徐々に創られる。
	1482	文明十四年	相国寺僧彦龍周興、智恩寺を訪れ、対潮庵記を書する。	対潮庵記	
	1483	文明十五年	三月、五月、相国寺僧彦龍周興、智恩寺を訪れる。	古月字節、癸卯西遊臺	
	1488	文明十八年	相国寺僧彦龍周興、九世戸智恩寺幹縁疏并序を書する。	九世戸智恩寺幹縁疏并序	
		文明年間頃	この頃、九世戸縁起が書される。	九世戸縁起	この頃、複数の天橋立生成の伝承が語られる。
		文明年間頃	この頃、智海、丹後国一宮深秘が書する。	丹後国一宮深秘	
	1489	長享七年	七月、天照大神が丹後久世戸に飛んだという風聞あり。	大乘院寺社雑事	
	1500	明応九年	三月、丹後守護代延永春信を檀那、智海を惣奉行として智恩寺多宝塔が建立される。	智恩寺多宝塔内墨書銘	
	1502	文亀二年頃	この頃、雪舟が天橋立図を描く。	—	
	1507	永正四年	一色氏と武田氏の戦乱で成相寺焼失、一色義有により再興寺地が現在地に移動する。	成相寺古記	
1569	永禄一二年	五月、連歌師里村紹巴、天の橋立を訪れる。	天橋立紀行		

	西暦	年号	記事	出典	備考
安土桃山時代	1580	天正八年	長岡(細川)藤孝、丹後国知行を命じられ、宮津城を築城を許可される。	細川家文書、綿考輯録	
	1580	天正八年	藤孝、天橋立の歌を詠む「丹後入国の刻橋立をみまかりて「そのかみに契り初つる神城にかけてそ思う天の橋立 いにしへの契し神のふた柱、今も朽せぬあまのはし立 余佐のうら松の中なる磯清水みやこなりせは君も汲みむ」	綿考輯録、衆妙集(和歌収録)	
	1580	天正八年	藤孝忠興親子、無双霊境としての智恩寺に禁制を出し寺領を安堵する。	智恩寺文書	天橋立、智恩寺領と目される。
	1581	天正九年	藤孝忠興親子、明智光秀、里村紹巴、津田宗及等丹後に招き、天橋立において連歌興行。「…十二日之巳之刻二、九世戸へ見物、かざり船にて、并橋立之文珠にて御振舞有之、…」	宗及茶湯日記	細川幽斎・忠興により、丹後において連歌興行や能の上演が行われ
	1584	天正十二年	八月二十三日、丹後宮津宗堅亭において何人百韻興行「橋立や」、二十五日、丹後田辺において、何人百韻玄旨叱両吟「敷袖	綿考輯録、連歌集、御事跡下兼見卿記	
	1586	天正十四年	十月、幽斎、兼見・宗及を伴い丹後に下向、十六日田辺で能・茶湯、二十五日天橋立見物。十二月、玄旨「丹後国天橋立之縁起」(九世戸縁起か?)を吉田兼見に持ち来る。		
	1588	天承十六年	十一月、丹後宮津で能あり。		
	1591	天正十九年	七月、丹後において月次会、田辺において歌会興行		
江戸時代	1599	慶長四年	六月、蔵人烏丸光廣、丹後宮津に遊ぶ。		
	1600	慶長五年	七月、幽斎、宮津城を焼却し田辺に籠城する。十二月、長岡家、豊前国へ移封。	綿考輯録	
	1600	慶長五年	十二月、次の丹後国主・京極高知により、文殊堂に橋立の裏向で鉄砲を放つことなどを禁止した禁制が出される。	智恩寺文書	
	1601	慶長六年	五月高知より、無双霊境としての天橋山智恩寺に寺領五十石が宛がわれる。	智恩寺文書	
	1643	寛永二十年	林鷲峰『日本国事跡考』に松島を天橋立・巖島を「三処の奇観たり」と記す。	日本国事跡考	天橋立、複数の名所風俗図屏風に描かれる。
	1649	慶安二年頃	八条宮智忠親王、桂離宮庭園に天橋立を造形する。	—	六条院の伝統が継承される。
	1670	寛文十年	十一月、智恩寺境内での商売に付、魚棚一郎兵衛が保証人となる。	智恩寺文書(魚棚一郎兵衛請書)	この頃には智恩寺門前に茶屋が出るようになる。
	1674	延宝二年以前	この年以前、狩野探幽(1602~74)天橋立を訪れを描く。	「天橋立丹後図画賛」	
	1680	延宝八年	九月、智恩寺馬場先にて、茶屋敷敷借用に尽き、八太夫らが請書を出す。	智恩寺文書(茶屋敷敷請書)	智恩寺門前に茶屋が出るようになる
	1681	天和頃	このころより文殊周辺で新田開発が進む。		
	1683	天和三年	大淀三千風、天橋立を訪れる。		
	1689	元禄二年	貝原益軒丹波・丹後・若狭を旅し、『己巳紀行』を著す。天橋立を「その景言語を絶す、日本の三景の一とするも宜なり」と記す。	己巳紀行	この頃より自然景観が称えられるようになる。
	1690	元禄三年	茶屋四件組合が、門前敷地借用について智恩寺納所へ請書を出す。	智恩寺(茶屋四件組合請書)	
	1720	享保九年	成相寺に寄進された「与謝之大絵図」に、智恩寺門前に茶屋風の建物が描かれる。また、天橋立先端の伸長が、四・五十年前には百十六間であったものが、この頃には三百間(五百四十メートル)に及んでいるとの注釈される。	「与謝之大絵図」	1670年から80年頃には洲崎の伸長が問題視され、この頃には約3倍になる。
	1724	享保十三年	智恩寺領の由来や惣村との関係について、奥平時代阿部時代の経緯をまとめた記録が作られる。	智恩寺文書(古代記録)	
	1726	享保十三年	京都柳枝軒より扶桑名勝図「丹後国天橋立之図」が刊行される。	扶桑名勝図「丹後国天橋立之図」	
	1741	寛保四年	智恩寺が、門前定に追加を出す。「一、寺山の松木、大小に依らず、根・枝葉・雑木も盗むべからず(略)。一、他所のものは門前に住宅いたさるべからず(略)。一、浄瑠璃かたり、三味線引・狂言師之類(略)一夜の宿をも借すべからず…」	智恩寺文書(文殊門前之定)	松が生活利用されていたとみられる。
	1749	寛延三年	溝尻村から三度に橋立裁断の願が出され、智恩寺がこれに反対したという、享保年中依頼の経過がまとめられる。記事中に近年洲崎が出て内海よりの通船が不自由であったこと、七、八十年来洲崎が突出し切戸が狭くなっていることなどがみられる。	智恩寺文書(橋立一件之始終之記録)	阿蘇海の水質悪化と、砂嘴先が伸張している様子が伺われる。
	1754	宝暦四年	与謝蕪村、この年より丹後に三年間滞する。	新花摘	
	1759	宝暦九年	『智恩寺書上帳』に渡しの記事が見られる。	智恩寺文書(智恩寺寺格并山林境内寺領等書上帳)	



	西暦	年号	記事	出典	備考
	1771	明和八年	智恩寺「公用案牘」に、二年前の洪水で「新切」ができ、次第に切込が進み、松木も余程倒れている為、「古水戸」の水はけを良くしたい願が記される。	智恩寺文書(公用案牘)	新たな切戸ができる。
	1805	文化二年	智恩寺からの九カ条の法度に対し、門前中が請書を出す。公儀の御林の木を盗みまないこと、寺山に於いて松木大小に依らず、枝葉・雑木までも盗まないこと、他に持林といえども売却の際は届出ること、新畑を営まないこと、境内の赤土を売り払わないことなどを	智恩寺文書(門前法度請書)	
	1817	文化十四年	古井戸を塞ぎ、新切戸一方にしたいという溝尻村から願に、鶏塚・涙ヶ磯に打ち寄せる名所の風景が変わってしまうこと、大荒満水時に水吐が悪く橋立越水にてどのような変化が起こるか想像できないこと、切戸を広げることは内海沿岸の田地に塩が流入すること、風波が渡舟に直接当り怪我人が出ることを理由に智恩寺が反	智恩寺文書(智恩時願書)	橋立と周辺名所の保全と生活・開発との両立問題。新切の事実化。
	1843	天保14年頃	島田雅喬(1808～81)「天橋立真景図」を描く。	「天橋立真景図」	洲崎伸長様子が実際に見える。
	1868	慶応三年	橋立の新水戸を切明、新田を造成する水刳突出工事を請け負うことを門前村が智恩寺に報告する。	智恩寺文書(文殊前組頭口書)	
明治時代	1871	明治四年	一月五日、寺社の没収され府、藩、県の管轄となり、天橋立も京都府の官林となる。	丸山弘「天橋立の風致史」『京都大学農学部演習林報告』五八号	
	1872	明治五年	七月九日、大風雨により陸続きであった大天橋と小天橋が切断される。	養老村史	
	1886	明治十九年	天橋立は農商務省の管轄になる。	丸山弘「天橋立の風致史」『京都大学農学部演習林報告』五八号	
	1889	明治二二年	八月八日、京都・宮津間車道全通直前の天橋立観光の状況が記される。	日出新聞	観光地化が進む。
	1905	明治三八年	京都府知事より内務・農商務大臣に提出された天橋立を国有林から公園地に組替える「橋立公園」としたいという伺が許可され、与謝郡に対し天橋立公園を与謝郡の公園とすることを指令する。	京都府庁文書(天橋立・宇治公園一件綴)	橋立公園が与謝郡役所の管理となる。
1907	明治四十年	小天橋の官有地の公園地編入が許可される。	京都府庁文書(天橋立・宇治公園一件綴)		
大正時代	1917	大正六年	与謝郡、天橋立内で保護すべき松、百二十本の一本づつの管理法を記した「天橋立公園松調査書」を作成し、松樹保護、および松樹の移植を実施。	与謝郡役所文書(天橋立公園一件書類)	
	1922	大正十一年	三月、天橋立が、磯清水神社、智恩寺境内、成相山上部の郡有山林とともに、国の史蹟名勝天然記念物保存法により、名勝に指定される。	与謝郡役所文書(財務二関すスル規定)	この頃には、与謝郡単独での公園管理が困難になってきている。
	1923	大正十一年	五月、小天橋と文殊間の架橋工事(廻旋橋)が着手される。	日出新聞	
	1924	大正十二年	十二月、天橋立保勝会(会長与謝郡長)の設立が許可される。	京都府庁文書(教育に関する法人一件)	
	1924	大正十二年	郡制廃止により「天の橋立公園」が京都府に移管される。	京都府庁文書(郡有財産処分)	
	1925	大正十三年	四月、丹後鉄道舞鶴・宮津間開通し、七月、天橋立駅が設置される。	日出新聞他	

\* 奈良から大正時代までを対象とした。

\* 主な参考図書：『宮津市史』通史編上・下、『同』史料編(一)・(二)・(四)、『吉津村史』。

2006.3作成  
吹田直子(京都府立丹後郷土資料館)

## 天橋立年表

文献等	調査報告等	事象	指定等
1501～04:	文亀・文永年間	雪舟「天橋立図」を制作	
1643:	寛永20年	林春斎「日本国事跡考」で天橋立、松島、宮島を奇観と紹介	
1651:	慶安 4年	天橋立決壊。(1974年「奥丹後史研究第2号」松田啓三郎による。)	
1677:	延安 5年	天橋立決壊。(1974年「奥丹後史研究第2号」松田啓三郎による。)	
	古い宮津記	「並松の内千貫松という大木あり、又美人松というもあり今は枯れてなし、切戸渡し場の邊厚松という橋立神社の社あり、此所諸木交り生て逢にみれば木立あつし故に厚松という」(昭和60年度「京都府立天の橋立公園の松並木保護管理対策調査報告書」より)	
1699:	元禄12年 9月	矢野日記云。元禄12年9月の頃、仙洞御所において名所の紅葉合わせありしとて、橋立の紅葉をとりに参られける。橋立の紅葉は他の紅葉と異なり、一爪多きよし。(「丹哥府志(天保12年、小林玄章・之保・之原)」より)	
1768:	明和 5年	天橋立決壊。(1974年「奥丹後史研究第2号」松田啓三郎による。)	
1841:	天保12年	「丹哥府志(小林玄章・之保・之原)」[千貫松]一聲塚の次/[美人松]千貫松の次/[うし松]美人松の次/以上三株は橋立の名木なり、各謂れあり。され共種々の俗説ありて辨するに暇あらず。	
1872:	明治 5年 7月 9日	洪水のため、大天橋が幅凡60間、深さ凡20尺に渡り決壊。これを大水戸、内河を小水戸という。	
1873:	明治 6年	太政官布達第16号により「地盤国有公園」に指定	
1890:	明治23年	内河(小水戸)浚渫。	
1905:	明治38年 2月	与謝郡営公園に指定	
1907:	明治40年 5月13日	皇太子殿下(大正天皇)、ダイオウショウを植樹	
1907:	明治40年 8月25日	大天橋(大水戸が埋まった部分)再決壊。	
1914:	大正 3年 4月	京都府が内河を河幅33m、中央深さ3mと整備。大天橋から小天橋砂州860mを切断。	
1916:	大正 5年 7月 5日	皇太子殿下(昭和天皇)、クロマツを植樹	
1917:	大正 6年 4月	与謝郡は天橋立内で保護すべき松120本1本づつ詳細な保護の仕方を記した「天橋立公園松調査書」を作成している。(宮津市史編さんだより第17号(7))	
1922:	大正11年 3月 8日	「名勝」に指定(内務省告示第49号)	
1923:	大正12年 1月 1日	郡制廃止により京都府に移管(京都府公園管理及使用規則大正11.12.27府告示第627号)	
1923:	大正12年 3月	回旋橋架設(府道天の橋立線)	
1934:	昭和 9年調査	京都大学関口教授ほか数名が同年 8月16日から翌 9月 7日にわたる23日間の実地調査	
1948:	昭和23年	昭和23年に枯死した千貫松(四本のうちの一本)は、その樹令550年であり...(昭和29年度「天橋立の樹木について」より)	
1951:	昭和26年～	世屋川、畑川に砂防ダム等建設。	
1951:	昭和26～45年	長さ15mの小突堤を50m間隔で設置。	
1952:	昭和27年11月22日	文化財保護法に基づき「特別名勝」に指定	
1954:	昭和29年度	「公園管理のかずかず(その八)天橋立の樹木について」(京都府都市計画課) 樹種、直径、樹高、材積、幹傾、根起、枝張、枝量、樹齡、成長及び過去20年間の推移を調査。 松の調査本数 4,432本	
1955:	昭和30年 3月31日	都市計画公園に決定	
1955:	昭和30年 6月 1日	若狭湾国定公園に指定	
1959:	昭和34年 4月 1日	海岸保全区域指定	
1960:	昭和35年 3月	回旋橋電動化(府道天の橋立線)	
1962:	昭和37年度	天橋立公園樹木引継調書(地盤国有公園の貸付に係る調書) 国有地部分の樹木30cm以上のものの、直径、高さ及び材積に関する調書	
1964:	昭和39年10月20日	都市公園法による供用開始	
1967:	昭和42年度	「天の橋立松くい虫駆除予防について」府林務課 誘引器による効果調査	
1970:	昭和45年	天橋立を守る会会長が、知事に天橋立の松保護について直接要望。府立植物園長が現地	

- 調査。
- ・松を病気から守るため、病害虫の駆除の実施。
  - ・松の樹勢を回復するため、土壌改良の実施。
  - ・松を健康に育てるため、間伐の実施。
- 1970:昭和45年度 天橋立保存対策事業開始。松くい虫防除と土壌改良を行う。
- 1971:昭和46年 3月19日 港湾隣接地指定
- 1971:昭和46～53年 長さ30mの大突堤を200m間隔で設置。
- 1973:昭和48年 4月 1日 「丹後の宮津-史蹟と名勝をめぐる-(天橋立観光協会)」案内記によると、千貫松・美人松・夫婦松などといった名がみられ、云々。/傘松というのは、この大地にある二本の老松が、ちょうど傘のような枝ぶりなので、これを公園の名としたのである。
- 1973:昭和48年11月26日 府立植物園長が天橋立の保存対策について以下を所見。
- 1) 客土と施肥による生育層の増大、改善
  - 2) 渚線(外海側)の防砂堤を増設し、土砂の流亡防止と砂浜の造成
  - 3) マツノマダラカミキリ、マツノコマダラメイガ、マツカレハ等の害虫やマツノハフルイ病等の病菌に対する合理的な薬剤散布による防除
  - 4) 苗木の合理的な補植と管理
  - 5) 老衰木の特別保護育成処置
  - 6) 中央道の幅員の確定と厳密な交通規制並びに橋立全域(含道路)の排水対策
  - 7) 下草育成による表土流亡防止
- 1974:昭和49年度 松の調査本数4,720本(樹種、直径、本数)
- 1975:昭和50年 1月10～14日 雪害で約700本が被害。391本を伐採、約400本に薬剤塗布・支柱等整備。
- 1975:昭和50年 2月28日 天橋立公園の雪害対策について府立植物園長による対策についての意見。
- ・回復見込み松の手入れについて(切口の整正、保護、支柱、防除)
  - ・引込電線の地下埋設について
  - ・松の補植について
- 1977:昭和52年 8月 3日 昭和45～52年の天橋立の保存対策事業の内容。
- 天橋立保存対策・老松の樹勢回復
- ・松くい虫防除
  - ・次世代の育成のため、客土、森林肥料の施肥、幼松に支柱、補植
- 侵食防止対策
- ・宮津湾側突堤18基築造
  - ・阿蘇海側護岸2,100m
- 1979:昭和54年度 松の調査本数4,715本(樹種、直径、本数)
- 1979:昭和54～56年 浚渫土砂を江尻地区海岸に投入。(サンドバイパス試行)
- 1980:昭和55年 回旋橋補修(府道天の橋立線)
- 1983:昭和58年 5月18日 「日本の名松100選」に選定
- 1983:昭和58年 「天橋立の発達」小谷聖史
- 1984:昭和59年 3月 「天橋立の松くい虫被害とその防除」(1984.3)鈴木和夫(東京大学農学部助教授・農博)  
・吉田隆夫(京都府立林業試験場)「森林防疫 FOREST PESTS No.384(Vol.33 No.3)別冊」
- 1984:昭和59年 4～5月 マツバノタマバエ被害と防除方法検討会
- 1984:昭和59年 6月25日 府立植物園長による松の調査結果報告。
- ・衰弱の激しい古木対策 枯枝の除去、エアレーション、栄養補給、幹巻、踏圧、灌水
  - ・13年前の調査より衰弱が激しいので、造園樹に準じた管理が求められる。特に裸地にあるので今冬には有機物を深耕穴に施用する必要がある。
- 1985:昭和60年 1月25日 船越の松(2本の内の1本)を老衰枯死のため伐採。高さ15m、幹径120cm、樹齢450年
- 1985:昭和60年 3月 8日 傘松を老衰枯死のため伐採。樹齢130年
- 1985:昭和60年 7月22日 「名水100選」に選定(磯清水)
- 1985:昭和60年度 「京都府立天の橋立公園の松並木保護管理対策調査報告書」(京都府立大学農学部 本城尚正ほか) 現況調査、土壌調査、地下水調査、動物調査、保護管理対策等

## マツの保護管理対策法について

- 1) 専門家巡視員を配置、単木的に造園的手法の管理を実施。
- 2) マツクイムシに対する防除。5～7月の薬剤散布。
- 3) 可視障害発現前の最適処理及び害虫被害の早期対応。
- 4) 枯死・羅病の枝、障害を受けた部位の切除と防護。
- 5) 樹勢が弱った際の幹の被覆。
- 6) 土壌の改良(良質の客土、有機質の鋤込み)
- 7) 踏圧や風雨により固く締まった土壌の改良(酸素管設置及び肥料等の混入)
- 8) 天橋立資料館建設による一般市民や観光客への啓蒙。

- 1986:昭和61年 宮津商工会議所が実行委員会を作り、「天橋立十景」を選定。
- 1986:昭和61年 サンドバイパス実施
- 1987:昭和62年 1月10日 「日本の白砂青松100選」に選定
- 1987:昭和62年 8月10日 「日本の道100選」に選定
- 1988:昭和63年度 都市公園台帳整備のため、松の本数を調査。松の調査本数5,144本
- 1989:平成元年 6月23日 千貫松(2本の内の1本)を老衰枯死のため伐採。高さ7m、幹径120cm、樹齢600年
- 1991:平成 3年 9月 「日本三景天橋立の生成とその発達過程の研究」(岩垣・名城大教授) 天橋立が形成され始めたのは、海面が最高位(平成3年当時の海面から+5m)から下降して現在(平成3年)の位置になった、恐らく3000年ほど前であろう。
- 1994:平成 6年 「天橋立の松に愛称を付ける実行委員会」が一般公募により12本の松に命名。
- 1996:平成 8年 7月10日 「日本の渚100選」に選定
- 1997:平成 9年度 「都市公園台帳整備」により、松の本数及び位置と雑木の本数を調査。  
松の調査本数5,208本
- 1999:平成11年 1月 「なかよしの松」「小女郎の松」ほか、約100本の松が雪害により倒壊。
- 1999:平成11年 「天橋立を守る会」が「なかよしの松二代目」「小女郎の松二代目」と、「蕪村の松」、「晶子の松」を指定。
- 2001:平成13年 3月 農林水産省・林野庁林木育種センター関西育種場(現・独立行政法人林木育種センター関西育種場、岡山県勝央町)が、12本の愛称松(久世戸の松、雲井の松、式部の松、千貫松、阿蘇の松、夫婦松、羽衣の松、雪舟の松、小袖の松、見返り松、双龍の松、船越の松)から穂木を採穂。接ぎ木増殖を図る。 2003.3.20 一部を里帰り
- 2001:平成13年10月～14年3月 天橋立公園松枯れ対策検討会(第1回～3回)
- 2002:平成14年 1月 阿蘇の松を松枯れのため伐採。
- 2002:平成14年 1～3月 回旋橋補修(府道天の橋立線)
- 2002:平成14年 7月 「天橋立を守る会」が松を利用した長机・長椅子を寄附。御便殿跡休憩所に設置。
- 2002:平成14年12月18日 天橋立公園松枯れ対策検討会(第4回)
- 2003:平成15年 3月13日 関西電力(株)宮津エネルギー研究所が、シヨウ口菌で育てた松苗100本を小天橋に寄贈。
- 2003:平成15年 3月20日 「阿蘇の松・二世」植樹式 独立行政法人林木育種センター関西育種場が接ぎ木増殖を図り、成功した7松17本を橋立に植樹。  
雲井の松 1本(20cm)、千貫松 2本(30～50cm)、阿蘇の松 3本(30～50cm)、  
夫婦松 1本(50cm)、雪舟の松 2本(30～50cm)、小袖の松 4本(35～50cm)、  
船越の松 4本(25～45cm)
- 2003:平成15年10月28日 天橋立公園松枯れ対策検討会(第5回)
- 2004:平成16年10月20日 台風23号により247本(大天橋199本、小天橋30本、第二小天橋18本)の風倒木被害を受ける。また、約90本の傾き、根の浮き上がり、幹折れ、枝倒れ等の被害を受ける。  
・双龍の松、小女郎の松二代目 倒木(治療不可能)  
・蕪村の松 幹折れ(幹断面の保護治療)  
・船越の松、大正天皇お手植えの松、昭和天皇お手植えの松 傾き(ワイヤー固定)
- 2005:平成17年 9月22日 第1回天橋立公園の松並木と利用を考える会開催  
松林の過密、土壌の肥沃化等々の諸問題の解決方を検討すべく検討会を設立
- 2005:平成17年11月11日 第2回天橋立公園の松並木と利用を考える会開催

松のあるべき姿とその実原意に向けた保全対策について検討

2006:平成18年 1月27日 第3回天橋立公園の松並木と利用を考える会開催

保全対策を持続させる仕組みづくりについて検討

2006:平成18年 3月 9日 第4回天橋立公園の松並木と利用を考える会開催

松のあるべき姿 ・白砂青松と呼べる松林とする

・天橋立神社付近は広葉樹が優先する林とする

・地上部と地下部のバランスの取れた林とする

・名木の保全と併せて将来の名木も育てる

保全育成作業

・土壌の肥沃化の抑止（下草刈り、松葉拾い、腐植の除去等）

・光環境の改善（整枝剪定、間伐除伐）

持続させる仕組みの4つの柱 ・天橋立の価値付け

・府民との協働管理体制の構築

・情報と価値の発信による共感の環の構築

・天橋立周辺環境の保全

沿革	(1501~04年)文亀・文永年間	雪舟「天橋立図」を制作
	(1643年)寛永20年	林春斎「日本国事跡考」で天橋立、松島、宮島を奇観と紹介
	(1873年)明治 6年	太政官布達第16号により「地盤国有公園」に指定
	(1922年)大正11年 3月 8日	「名勝」に指定（内務省告示第49号）
	(1923年)大正12年 1月 1日	京都府立公園に指定
	(1952年)昭和27年11月22日	文化財保護法に基づき「特別名勝」に指定
	(1955年)昭和30年 3月31日	都市計画公園に決定
	(1955年)昭和30年 6月 1日	若狭湾国定公園に指定
	(1959年)昭和34年 4月 1日	海岸保全区域指定
	(1964年)昭和39年10月20日	都市公園法による供用開始
	(1971年)昭和46年 3月19日	港湾隣接地指定
	(1983年)昭和58年 5月18日	「日本の名松100選」に選定
	(1985年)昭和60年 7月22日	「名水100選」に選定（磯清水）
	(1987年)昭和62年 1月10日	「日本の白砂青松100選」に選定
	(1987年)昭和62年 8月10日	「日本の道100選」に選定
	(1994年)平成 6年	12本の松に愛称を命名
	(1996年)平成 8年 7月10日	「日本の渚100選」に選定

文献等

『天橋立の発達』小谷聖史 S58

『天橋立「生成は2000 - 4000年前」岩垣・名城大教授が新説』1991.5.23 新聞記事 公園事務所切抜

『砂嘴の形成と侵食に関する研究 - 天橋立海岸について - 』海岸工学論文集第39巻（1992）陳 活雄・岩垣雄一

『特別講演「歴史の中の天橋立とその形成の過程」』京都大学名誉教授 岩垣雄一 2001.11.6

『丹後の宮津 史蹟と名勝をめぐる 』昭和48年4月1日 天橋立観光協会

『森林防疫 FOREST PESTS No.384 (Vol.33 No.3) 別冊』1984(昭和59年)3月

『京都府立大学大学院農学研究科 池田助教授の話(2003.10.29)』

中国でもマツ枯れ被害が拡大しており、観光地（黄山）を守るため、その周辺林4kmのマツを伐採している。

『日本生態学会誌50:269-276(2000)特集 空間生態学 松枯れシステムのダイナミクスと大域的伝播の数理解析』

『公園管理のかずかず(その八)天橋立の樹木について』京都府都市計画課 昭和29年

内容(行事名)	主体	実施期間	頻度	備考	概 要	現在実施
<b>主に利用目的で実施された地域の行事</b>						
市民駅伝競走大会	宮津市、宮津市陸上協会	H14～現在	年1回	全域	H14～天橋立をコースに編入	
阿蘇海一周マラソン大会	中学校体育連盟		年1回	全域	H17が男子第54回大会、女子第15回大会	
天橋立小学生駅伝競走大会	小学校体育連盟		年1回	全域	H17が第4回大会	
ちびっこ祭	天橋立観光協会文殊支部	S51～	年1回	小天橋	アスレチック、相撲、迷路、紙芝居、テレフォンコーナーなど	-
地区対抗駅伝競走大会	宮津市	H1～H16	年1回	全域	市内地区ごとにチームを編成して実施	-
天橋立マラソン大会	宮津市	S63～H4	年1回	全域	市民マラソン大会	-
「岩見重太郎記念」少年剣道大会	宮津ロータリークラブ	H17	単発	岩見重太郎記念碑横		-
<b>主に利用目的で実施された広域誘客の行事</b>						
天橋立「炎の架け橋」	実行委員会	H6～現在	年1回	全域	天橋立を約200本のかがり火で浮かび上がらせる。	
文殊堂出船祭	文殊繁栄会	～現在	年1回	天橋立運河	かがり火で彩られた運河で、ドラや太鼓に合わせ金銀の龍が舞うイベント。	
天橋立海水浴場	宮津市	～現在	夏季	文殊側、府中側		
天橋立ミニトライアスロン大会	同登録事務局	S61～	年1回	全域	水泳1km、自転車34km、マラソン10km	-
丹後天橋立ツアーデーマーチ	丹後広域市町村圏事務組合	H4～現在	年1回	全域	天橋立を含む丹後地域をコースに2日間にわたり行われるウォーキング。	
丹後さものまつり	実行委員会	H12～現在	年1回	文殊、小天橋	以前は網野町で実施されていたがH12～天橋立で実施。	
ビーチバレー京都天橋立フェスティバル	京都府ビーチバレー連盟		年1回	大天橋付近	府内全域から参加がある約300人～400人規模のビーチバレー大会	
天橋立新能「洋上夢舞台」	宮津市	H6	隔年	大天橋付近	天橋立の白砂青松をバックに洋上舞台で演じられる新能	-
天橋立健康ジョギング大会(はばたく京都のスポーツ推進大会)		S53.11.20	単発	全域	300人参加	-
天橋立寒中てんこる舟競争	天橋立観光協会	S59～H15	年1回	阿蘇海	天橋立をバックに阿蘇海で繰り広げられるてんこる舟競争	-
天橋立納涼フェスティバル	天橋立観光協会	S59	年1回		いかだ競漕とスイカ割り大会など	-
ねんりんピック'93京都マラソン交流大会		H5	単発	全域	第6回全国健康福祉祭種目、1,714人参加	-
丹後フェスタ'96	丹後地域誘客推進事業実行委員会	H8.9.22			丹後七姫行列	-
近畿高等学校駅伝競走大会	近畿高等学校体育連盟	H10.11.29～H12	年1回	全域	近畿2府4県男子40チーム、女子38チーム出場	-
天橋立アート&クラフトフェア天橋立美術展	実行委員会	H10～H14	年1回		絵画や陶芸、彫刻など約200点の作品を展示	-
早春の丹後路ウォーク&ウォーク	青少年海洋センター	H15	単発	全域		-
日本三景天橋立オープンウォーターレース	日本を泳ごう委員会	H15～16	年1回	全域		-
国民体育大会近畿ブロック大会京都府予選会	京都府ビーチバレー連盟			大天橋付近		-
全国健称マラソン大会	全国健称マラソン会	S46.4.10～現在	年1回	全域	60歳以上の参加者で阿蘇海を1週する13kmマラソン。第1回は38人参加。記念大会は天橋立で開催。	-



内容(行事名)	主体	実施期間	頻度	備考	概 要	現在実施
<b>主に管理目的で実施された地域の行事</b>						
クリーンはしだて1人1坪大作戦	天橋立を守る会、他	S51~	年1回	全域	ボランティアによる清掃活動	-
地域の清掃活動	天橋立を守る会、他		年4回	全域	天橋立を守る会と観光協会の共同活動	-
高校生らによる清掃活動	各学校		随時	全域	宮津高校、暁星高校生徒らによる清掃活動	-
<b>その他</b>						
歩ら輪くルートがぶらり府中ロマンのみち設置	宮津市	H12	単発	府中地区	近畿自然歩道「天橋立をゆくみち」「丹後国分寺址を訪ねるみち」とネットワークし名所、旧跡を散策するルート	-
「特別名勝天橋立」石標建立	天橋立を守る会	S48.6.20	単発	小天橋	T11年3月史跡天然記念物保護法による名勝指定を受け、T13年9月「名勝天橋立」石標建立。その後、S27.11.27に「特別名勝」に指定されたため建立。	-
和泉式部歌碑建立	(天橋立を守る会)	S59.4.1	単発	磯清水付近	はしだての松の下なる磯清水都なりせば君も汲ままし	-
傘松公園の3代目「傘松」選定	宮津土木事務所	S60.3	単発	傘松公園	初代はS46、2代目がS60に枯死	-
天橋立十景選定	宮津商工会議所	S63	単発		公募により選定	-
12本の松に命名	実行委員会	H6	単発		公募により選定	-
知事と和いらいミーティング	京都府	H15.7.27	単発	磯清水付近		-
傘松公園にロケットカメラ設置	NHK	H11年	単発	傘松公園	H11.9.30まで設置	-
植樹祭	宮津市	S44.4.5	単発	阿蘇海沿い	約300本の松苗を市長らが植樹(天皇陛下からご下賜になった種を育てた苗)	-
日本三景観光連絡協議会発足	協議会	S50~現在			構成:宮津市、松島町、宮島町とその観光協会	-
天橋立磯清水日本の名水百選に選定	環境庁	S60	単発	磯清水		-
第8回松原サミット開催	松原友好都市交流会議	H6.10.26	単発			-

## 命名松一覧

地区 番号	幹径 高さ	名前 ローマ字表記(案)	松名サイン内容等	摘要
大天橋 256	120cm 20m	船越の松 Funakoshinomatsu	昔からこの地を「船越」と称していることから命名された名松。	古名松
大天橋 422	141cm 18m	双龍の松 Soryunomatsu	二頭の龍が天へ昇る様を表すように立つ。	H6命名 双幹
大天橋 521	73cm 13m	見返り松 Mikaerimatsu	道中でも巨木であり、振り返って見たくなるような松。	H6命名
大天橋 743	90cm 13m	小袖の松 Kosodenomatsu	松の枝が程好く垂れ下がり小袖を掛けておける様な松。	H6命名
大天橋 1215	80cm 15m	なかよしの松 Nakayoshinomatsu	二俣でバランスよく立っていて仲良くしている様子。	H6命名 H11二代目
大天橋 1500	90cm 13m	雪舟の松 Sessyunomatsu	国宝「雪舟天橋立図」があることから雪舟の名を引用した。	H6命名
大天橋 1600	73cm 9m	羽衣の松 Hagoromonomatsu	伝説「羽衣天女」を連想させる優美な松。	H6命名
大天橋 1800	68cm 15m	夫婦松 Meotomatsu	一本の幹から釣り合いのとれた二本が現れ、夫婦の如く仲良く寄り添う名松。	古名松 双幹
大天橋 2059	68cm 13m	阿蘇の松 Asonomatsu	阿蘇海側にある代表的な名松。	H6命名 H14二代目
大天橋 2132	100cm 9m	千貫松 Sengan matsu	千貫文目の価値があると言われた名松。	古名松
大天橋 2579	80cm 16m	小女郎の松 Kojoronomatsu	民話「橋立小女郎」の小径が付近にある。	H6命名 H11二代目
大天橋 2805	70cm 7m	手枕の松 Temakuranomatsu	手枕となるような名松	古名松
大天橋 3000	68cm 14m	式部の松 Sikibunomatsu	赤松(女松)のほっそりとした美しい姿であることから、和泉式部に準えた。	H6命名
大天橋 3070	84cm 13m	雲井の松 Kumoinomatsu	雲の合間に座るが如くという意味でそびえ立つ様を表している。	H6命名
大天橋 3467	49cm 12m	智恵の松 Chienomatsu	一本の松が三又になっていて「三人寄れば、文殊の智恵」から引用された。	H6命名 複幹
小天橋 93	67cm 15m	九世戸の松 Kusetonomatsu	大天橋と小天橋との間に位置する松でこの地を昔から「九世の戸」と称している。	H6命名
大天橋 2629	52cm 19m	御手植の松 Oteuenomatsu	明治40年、大正天皇が皇太子時代に御手植えされた松。 (石碑あり)	M40.5.13 大正天皇
大天橋 2660	36cm 14m	御手植の松 Oteuenomatsu	大正5年、昭和天皇が皇太子時代に御手植えされた松。 (石碑あり)	T5.7.5 昭和天皇
大天橋 2788	80cm 14m	晶子の松 Akikonomatsu	橋立を詠んだ与謝野晶子にちなみ命名された松。 (守る会看板あり)	H11命名
大天橋 2999	76cm 16m	蕪村の松 Busonomatsu	松の絵を描いた与謝蕪村にちなみ命名された松。 (守る会看板あり)	H11命名
傘松 30	72cm 16m	傘松 Kasamatsu	地名「傘松」の由来となった松の三代目*1。 (石柱あり)	